

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-400	21-018	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b> Alcohol use disorder and healthcare utilization in patients with chronic asthma and obstructive lung disease 慢性喘息および閉塞性肺疾患患者におけるアルコール使用障害および医療利用		
<b>執筆者</b> MacMurdo M, Lopez R, Udeh BL, Zein JG.		
<b>掲載誌</b> Alcohol. 2021 Jun;93:11-16. doi: 10.1016/j.alcohol.2021.03.002.		
キーワード	PMID	
慢性閉塞性喘息、アルコール使用障害、医療利用	33713754	
<b>要 旨</b>  <p><b>目的：</b>アルコール使用障害（AUD）は様々な疾患の罹患および死亡に直接的に関連する。しかし、慢性喘息および閉塞性肺疾患（COPD）に対するアルコールのインパクトについては不明である。AUD 治療が、医療利用や医療費軽減に対し潜在的に影響を与えるかどうかについて検討した。</p> <p><b>方法：</b>2012-2015 年の National Readmissions Database (NRD), National Emergency Department Sample (NEDS)を用い、喘息あるいは COPD 患者を同定し、本研究の対象者とした。ロジスティック回帰分析を用い、AUD 患者における呼吸不全、30 日間の再入院、入院期間の延長および入院費の増加のオッズ比（OR）および 95%信頼区間（CI）を算出した。</p> <p><b>結果：</b>NEDS のうち、COPD あるいは喘息と診断されたのは 2048380 人であった。そのうち、AUD 患者は呼吸不全リスクが高く（OR 1.32, 95%CI 1.26-1.39）、救急治療室で人工呼吸器が必要となるリスクが高かった（OR 1.30, 95%CI 1.19-1.42）。NRD では、1096663 件の入院が同定された。そのうち 4.1%が AUD を有していた。AUD では、入院期間の延長（OR 1.06, 95%CI 1.04-1.08）、入院費の増加および 30 日間の再入院の増加（OR 1.24, 95%CI 1.20-1.28）の可能性が高かった。</p> <p><b>結論：</b>AUD は喘息あるいは COPD 患者において、疾患罹患率および医療利用の増加と関連した。このことから、閉塞性肺疾患と AUD を併発している患者において、AUD 治療することで、疾患の改善や医療費の軽減につながる可能性が示唆された。</p>		